

3 文の成分(2)

3-1 接続語・独立語

1 接続語

一つの文の中、または、前後の文をつないで、その関係を示す働きをする語。

[例] A 寒かった。それで、外出しなかった。…文と文をつなぐ。

B 寒かったので、外出しなかった。…接続助詞が付き、あとの文の条件や理由を表す。

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| (1) 順接…前後を順当につなぐ | [例] だから・それで・すると |
| (2) 逆説…前後を逆の内容につなぐ | [例] しかし・ところが・けれど |
| (3) 選択・比較…前後のどちらかを選ぶ | [例] または・あるいは |
| (4) 並立・累加(添加)…前に並べたり付け加える | [例] また・そして |
| (5) 説明・補足…前の内容に説明を加える | [例] 例えば・つまり・なぜなら |
| (6) 転換…話題を変える | [例] では・ところで・さて・ときに |

2 独立

他の文節とは直接の係り受けの関係がなく、比較的独立している文節のこと

- [例] (1) ああ、美しい花だ。(感動)
(2) うん、そうだね。(応答)
(3) もしもし、A さんですか。(呼びかけ)
(4) 国語、これが最も得意な教科だ。(提示)
→ そのあとにくる読点(、)を句点(。)に変えても、一つの文として考えることができる。